

国際協力の
最前線+α

6



トルコで暮らすシリア難民の 生活に安心を

NGO「難民を助ける会(AAR Japan)」の
ましかわたけひろみ
吉川剛史さん



Q 現在のトルコでのお仕事について教えてください。

トルコ南東部で、シリアから来た難民のため、公民館のような役割のコミュニティセンターを運営しています。難民というと、難民キャンプで生活しているイメージがありますが、実際にトルコにいるシリア難民の90%以上、つまり300万人以上がアパートなどに暮らす「都市難民」です。アパート暮らしならば彼らの生活は楽なのかという、そうではありません。言語が異なるため周囲の人とコミュニケーションをとれなかったり、ビザの問題もあって働ける場所がほとんどなかったりします。また、都市難民は個別に暮らしているので、トラブルが発生したときに相談する相手すらいません。そのうえ、帰国のめどが立たないためこの状態がこれから先まだ何年続くのかわからないのです。こうしたストレスの多い生活を送っている彼らに居場所を提供することが現在の仕事です。

Q 具体的にはどのような活動をされているのでしょうか。

まずはどこに難民の方が住んでいるのかを地道に調査します。そして、家庭を一軒ずつ回って、コミュニティセンターの存在を知らせ、関係をぎざぎざしていきます。センターでは、楽しんでもらえる歌や踊りの催しを企画したり、安くて健康的なレシピを教える料理教室などを開いたりすることで、皆さんに集まってもらえる機会と場所を提供しています。シリア難民どうしだけでなく、現地のトルコ人との交流が生まれたことで、たがいに助

け合えるようになった例もあります。

日本人である私は、シリア人やトルコ人にとっては外国人です。しかし第三者だからこそ、客観的な視点もてるかもしれません。もちろん、部外者ゆえの認識不足に陥らないよう、彼らから多くのことを学びつつ活動を行っています。

Q 現在のお仕事を選んだ理由について教えてください。

高校生のときに『トットちゃんとトットちゃんたち』を読み、世界には私と同世代でありながら貧困に苦しむ人たちがいることを知り、ショックを受けました。国際色豊かな大学に進学したのは、国際協力に携わりたいという願いからです。私は大学では社会学を学びましたが、どの分野の学問でも国際協力で生かすことはできます。チャレンジする姿勢があれば、自分のやり方次第で、多くの可能性が広がる仕事だと思います。



2健康的な食事のレシピを実演するイベント(トルコ、2018年) 栄養バランスに関する知識不足が原因で、かたよった食生活を送る難民も多い。なかには糖尿病をわずらって仕事を続けられなくなる人もいる。そのような状況を少しでも改善するためにイベントが企画された。



1支援が必要な難民を探すための聞き取り調査(トルコ、2017年)



3コミュニティセンターに通う子どもたちと吉川さん(中央上)(トルコ、2018年)